

暮らしの木工市開催趣旨

暮らしの木工市は、木工品、木工素材だけのマーケットです。2010年から里山近くで開催していましたが、2017年からは、街中へ飛び出して開催しています。

最近では、いろいろなところでマーケットが開催されていますが、木工品、木工素材だけのマーケットは珍しいのではないかと思います。私たちがなぜ木に特化したマーケットを開催しているのか説明させていただきたいと思います。

木は、太陽の光と雨水、そして地球温暖化の原因のひとつである二酸化炭素によってつくることができる再生可能な資源であり、これから求められる循環型社会に最も貢献してくれるものです。にもかかわらず、今の社会は、資源量に限界がある化石燃料などを原料としたプラスチックや製造に多くのエネルギーが必要な鉄など利用したものが、生活に多用されています。いずれ枯渇する資源に頼った社会の限界はすぐそこまで迫っています。また、プラスチック製品は、廃棄する際にも多くの問題を持っています。最近では処理しきれずに捨てられ、海に流れ込んだ海洋プラスチックごみが大きな問題にもなっています。

コンクリートや鉄に比べて、木は思っている以上に耐用年数が高い資源です。木材だけが人が利用する期間と資源として活用できるまで育つ期間を合わせることができる再生可能な資源なのです。森の生き物が生育したり、自然環境を維持するためには、広葉樹は必要ですが、人が手入れできる近くの山に植えられた針葉樹の杉や桧は、活用しやすく、適切に管理し使っていけば、資源としてだけでなく、雨水を貯めて調整したり、浄化したりする水環境を守る機能、災害から守ってくれる機能の両方を持っています。私たちの住む滋賀県は、近畿の大きな水がめである琵琶湖があります。近くの山の木々は、琵琶湖の水を守り、災害からも人を守るといった大切な役目も担ってくれているのです。

木は素材として見ると、プラスチックなどと違い、個性があり、美しさやあたたかみなどがあります。プラスチック製品のおもちゃなどは、すぐに飽きて捨てられてしまいがちですが、木でつくられたものは長く、時には世代を超えて楽しむこともできます。

木材は、暮らしの道具や生活用品としての利用はめっきり減りましたが、まだ住まいを建てる材料として多く使われたり、子どものおもちゃなどでも多少使われたりしています。

しかし、今の住まいづくりなどに使われている木材は、価格を抑えるだけのためにはるか遠くの外国から船などで燃料をたくさん使って運ばれてきたものが多いのです。遠くから運ばれてきた木材は、日本の高温多湿な気候風土に合わず、耐久性も低く、しろありにも弱いものも多くあります。そういった木材で建てられた住まいは、木が育つ期間以上の耐久性が持てないケースもあります。近くの山で育った木は、その地の気候にも合って耐久性も高く長持ちします。もちろん運ぶエネルギーも少なくて済みます。

私たちは、再生可能で環境にやさしい資源である近くの山の木の活用をもっと進めるために木の良さを楽しみながら理解してもらおうと思い、この木だけのマーケットを開催してきました。

木を使うこと、木を暮らしに取り入れていくことが、環境にも優しく、持続可能な暮らしを実現していくための未来につながる行動だということを手づくりする楽しさ、手づくり品を使う楽しさの中で知ってほしいと思っています。